

ナラティブ・メディア研究会
講演と討議

「萌え」と「BL」のキャラクター構造と歴史性

ササキバラ・ゴウ
(佐々木 果)

概要：現代のまんが・アニメ・ゲーム・ライトノベルなどの分野では、作品対象が男女に分化していることが多く、中でもそれを象徴する現象が、近年の男性向けの「萌え系作品」と女性向けの「BL（ボーイズラブ）作品」の流行である。このような現象を分析するために、作品中のキャラクターが一般的にいかに関容されているかをモデル化して考え、その構造と歴史性を検討する。具体的には、「自己投影モデル」「欲望対象モデル」の2つを導入してキャラクター受容のありさまを検証し、その歴史的な変遷を追う。そこで明らかになるのは、「萌え系」や「BL」が成立する背景として、明治期以降の社会のジェンダー構造が大きく関わっているということである。しかもその社会構造は女性のみならず、男性にも抑圧として作用し、その結果が現代の様相を生んでいることが明らかになる。

2010年3月9日(火) 13:00～
東北大学情報科学研究科 2階 大講義室
(青葉山キャンパス)

ササキバラ・ゴウ (佐々木 果)

評論家、まんが編集者。横浜国立大学ほか非常勤講師。著書に『美少女の現代史』（講談社現代新書、2004）、『教養としてのまんが・アニメ』（大塚英志との共著、講談社現代新書、2001）、ロドルフ・テプフェール『ヴィユ・ボワ氏』（復刻と翻訳、オフィスヘリア、2008）。

どなたでも興味のある方の来聴を歓迎します（事前申し込み不要）

問い合わせ先:

情報科学研究科 森田直子 (morita@media.is.tohoku.ac.jp 電話 022-795-4788)
文学研究科 森本浩一 (xkc-m2rt@sal.tohoku.ac.jp 電話 022-795-5969)